福島第一原子力発電所 廃炉情報誌　はいろみち　第23号

Hairo Michi

10年目の現場から

～それぞれの想い、ここに集う～

P3-5

若手社員紹介 第13回「ミライ×Michi」P1-2　　第23回　「あの日から」P6

若手社員紹介
VOL.13

ミライ×Mic

保全の技術を習得し 知識を深めて復興に貢献する

福島第一廃炉推進カンパニー
福島第一原子力発電所
建設・運用・保守センター
機械部 貯留設備グループ
阿部（あべ） 知弘（ともひろ）

未来を担っていく若手社員に仕事への想いなどを語ってもらう「ミライ×Michi」。第13回目となる今回は、入社5年目の阿部知弘さんです。入社の動機や現在携わっている業務、これからの目標などについて聞きました。

■東日本大震災当時はどうしていましたか

当時、私は**高校2年生**で、自宅のある**広野町**からいわき市の高校に通っていました。震災翌日に**全町避難**となり、家族とともに親戚のいる栃木県に避難しました。1ヶ月ほどそこに滞在し、その後はいわき市にアパートを借りて高校生活を送りました。校舎も地震の被害を受けたため、**仮設校舎**での授業でした。大学受験の年をそのような慌ただしい中で過ごしました。

■入社のきっかけはどのようなことですか

高校1年生の時から、卒業後は進学して電気について学びたいと考えていました。東京電力の社員である**父の姿**を幼いころから見ていて、自分も**同じ会社**で働きたいと思っていたからです。震災があり、福島第一原子力発電所の事故が起きた中でも、その気持ちは変わりませんでした。それと同じくらい、**ふるさとのため**に自分も**役に立ちたい**という想いが強くなりました。

■初めて福島第一原子力発電所を訪れたのはいつですか

大学では**電気電子工学**を専攻していました。在学中に、福島第一原子力発電所の視察に参加した時が初めてです。バスの中からの視察でしたが、**原子炉建屋**の近くまで行くことができることに驚きました。事故当時にニュースで見た映像が頭に残っていたので、構内は想像していたよりも**整備され**ているエリアが増えている印象を持ちました。しかしながら、それ以外のエリアや発電所構外の**町の様子**を目の当たりにし、**「このままではいけない、自分のわずかな力でも何かできることをやらなければ」**という思いが湧いてきたことを覚えています。

■入社後はどのような仕事をしていますか

2016年に入社し、研修を経て、福島第一原子力発電所の貯留設備グループに配属になりました。最初に就いたのはフランジ型タンクの保全業務です。**ボルト締め**で組み上げたタンクなので、

hi

継ぎ目から**水が漏れないよう**に対策を練り、処置をするための工事監理が主な仕事でした。現在処理水を保管しているタンクは、継ぎ目のない溶接型タンクなので、そのような**リスクは無くなり**ました。

２年ほどその業務を行った後、現在は、タンクから水処理施設へ放射性物質を含んだ水を移送する**ポンプや配管**の保全業務に携わっています。配管は全長で**40km**ほどの長さがあり、その繋ぎ目の一つひとつをしっかりと保全して、**水を漏らさない**ようにすることが業務の目的です。ポンプに関しては、運転状態を診断することで、機器の**異常を把握**することも大切な仕事となります。入社当初よりも業務の範囲が広がり、現場を任されることも増えたので、その分、**責任**も大きくなったと感じています。

■どんなことにやりがいを感じますか

保全の仕事には入社後の研修で興味を持ち、希望して配属されました。**「水が漏れない」**という状態を**維持**することが今の私の業務の目的なので、安定した状態が維持できていることに安堵し同時に**やりがい**を感じます。また、現場での作業に必要な技術を一つひとつ習得していくことにも、重要性を感じています。内製化に向けた作業手順書の作成や、それに伴う作業など、技術を身につけることで仕事の幅も広がるので、これからも**積極的**に学んでいきたいと思っています。

■これからの目標について聞かせてください

今後は設備診断に必要な資格や、放射線取扱主任者などの**資格取得**にも挑戦していきたいと考えています。そのための勉強も頑張っているところです。また、仕事をする上で感じているのはコミュニケーションの大切さです。**人と人との関わり**を大事にしていきたいと思っています。

今後廃炉が進むにつれて、必要とされる業務は変わってくると思います。廃炉作業の一翼を担うため、私自身も**知見を深め**ていきたいです。入社する前から変わらずに持ち続けている**「ふるさとの復興の役に立ちたい」**という想いを胸に、これからも日々の仕事に取り組んでいきたいと思っています。

貯留設備グループ
今村チームリーダーより

自ら高い目標を定め、その目標に向かって日々努力し達成する姿をいつも見ています。

これからもその姿勢を継続し、誰からも頼りにされるリーダーに成長して欲しいです。

2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023

❖構内で廃炉作業に携わる協力企業の皆さんの姿を写真でご紹介します。❖

10年目の

～それぞれの想

化学分析業務

これまで以上の正確性を実現

構内環境整備

3号機燃料取出作業　遠隔操作室

処理水タンク上部

クレーン点検

細やかな視点を大切に

構内施設の線量測定

その先の工程へ進める

仲間

安全を最優先に

護岸ブロック製造

私たちは復興のために来ている

コンクリート打設

故郷のためにできることを

使命感と

電気・通信ケーブル改修

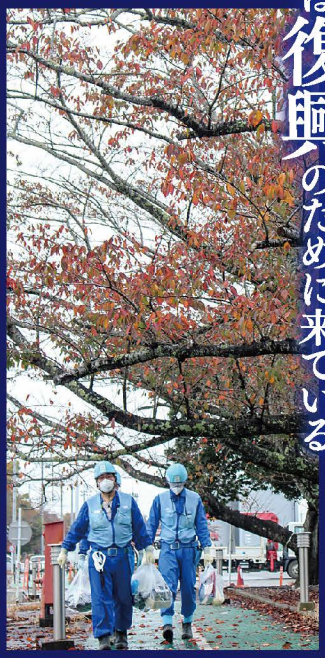
福

一致団結して取り組む

1・2号機排気筒解体

地盤掘削

バックホーオペレート



廃棄物分別

地盤改良

2024 2025 2026 2027 2028 2029 2030 2031 2032 2033 2034 2035 2036

現場から

い、ここに集う～

との連携・コミュニケーション

保護衣保管

許されない難工事

掘削土コンテナの運搬

小さな操作ミスも

2号機ガレキ撤去

刻も早く

2号機ガレキ撤去

安定した状況に

3号機屋上ガレキ撤去

廃炉作業を滞らせないために

処理水タンク溶接

責任を持って

処理水タンク建設

遠隔装置の操作

島の復興に繋げる

処理水タンク建設現場

未知なることへの挑戦

❖これまでにお聞かせいただいた「作業に取り組む想い」をあわせて掲載いたしました。❖

知識と経験を活かし、チームで取り組む

株式会社アトックス
福島復興支社　設備工事部　設備保守二課　係長
高野（たかの）　泰（やすし）さま

廃炉作業は全てが「初めて」となる挑戦ばかりです。一人では決して進めることができないその一つひとつの作業を多くの仲間と共に、知恵を出し合いながら日々取り組んでいくことによって、今、着実に前に進めることができています。

私は、平成９年に株式会社アトックスへ入社して以来、福島第一原子力発電所での作業に従事してきました。震災当日も構内におりましたので、それまで整備されていた構内の様子が地震と津波により目の前で一変してしまったあの時の状況が、現実とは思えなかったことを今でも忘れることができません。

事態の安定化に向け、震災から１ヶ月後の４月には構内に入り、作業員の出入り管理や汚染検査に従事しましたが、恐怖心はなく、とても多くの作業員が対応にあたっていたことが印象に残っています。その後５月からは汚染水処理に関わる業務に携わっています。

現在は、日々発生する放射性物質を含んだ水から放射性物質を取り除く施設で、設備の点検やメンテナンスの工程管理、前処理工程で発生する廃棄物を一時保管施設へ運搬し適切に保管・管理する業務に従事しています。ここで行われている多くの作業同様、私たちの作業も決して止めることができない重要な作業です。特に処理前の放射性物質を含んだ水に関しては、決して漏えいさせないよう、設備の点検や交換時には二重三重の対策を講じた上での安全作業を実施しています。

放射線量の高い水を処理するため、それを扱う社員への教育や作業中のコミュニケーションを徹底しながら、自分自身の知識や経験はもちろん、関係する部署との連携や若手から出される新たな視点での提案等によって、設備が継続的に稼働し、水処理が行えていることにやりがいを感じています。

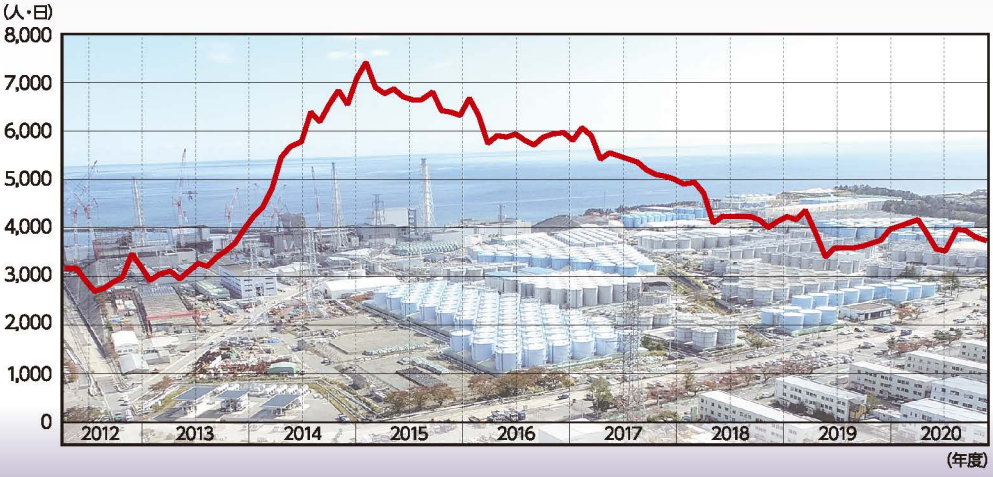
私は、福島県浜通りで生まれ育ち、震災当時は大熊町に住んでいました。

近隣の状況は大きく変わってしまいましたが、現在は、人や施設が増え始めていることを実感しています。

今後、各所で地域のお祭りなどが復活し、当時の賑わいが見られるよう、そして私たちが行っているこの作業が復興の一助となるよう、これからも廃炉作業に携わっていきたいと思っています。

水処理設備で発生した廃棄物を一時保管施設へ運搬する様子

作業員数の推移



2014年度は陸側遮水壁工事やタンク建設工事を行っており、7,000人を超える作業員の皆さんが構内で作業に従事していました。

現在でも汚染水対策、燃料取出し、デブリ取出し、廃棄物処理などの作業、またはそれに向けた準備など、約4,000人の方々が日々構内で作業を行っています。

作業の安全対策、被ばく低減対策はもちろん、作業を止めることのないよう、一人ひとりの想いが集結し、廃炉作業が進められています。

第23回

あの日から

今できることを確実に
～仲間と共に進む想い～

福島第一廃炉推進カンパニー　福島第一原子力発電所
敷地全般管理・対応プログラム部
5.6号対応PJグループマネージャー

大嶋（おおしま）　登茂隆（ともたか）

当時、私は福島第一原子力発電所で計装の保守・点検業務を担当していました。地震が起きたのは、現場作業を終えて事務所に戻ったときです。発電所内が停電し混乱する中、自動弁の制御回路に仮設電源を取り付ける作業等を行いました。何とか復旧させなければと必死でした。

その後約２ヶ月間は、発電所に入構するための準備を行う拠点となったJヴィレッジで、作業用の装備配付や、在庫の管理をする仕事を行いました。現場に向かう仲間や作業員の皆さんの姿を見ているうちに、自分も早く発電所に戻って廃炉作業に携わり、一日でも早く事態を収束させたいという気持ちが強くなってきました。仲間の存在が、私の背中を押してくれたのだと思います。

その後、2011年7月に福島第一原子力発電所に戻ることになりましたが、その時の発電所構内は放射線量も高く、現場の様子が分からない場所も多かったため、状況を少しでも把握するためにカメラやセンサーを設置することが急務となっていました。本来業務である計装の仕事を遂行することが、廃炉作業を進めていると実感し使命感を持って取り組みました。これまで、高線量下でそのような業務を行ったことはありませんでしたので、被ばくを低減させる工夫や効率的な仕事の進め方などを常に考えながら、様々な部門と連携して進めたことを覚えています。とにかく、地域の皆さまに少しでも安心していただけるようにという想いで必死でした。

工事を行う前に、社外の皆さまへ工事内容のご説明をするための資料作成に携わる機会も多くありました。内容をご理解いただける説明をするにはどのような資料を作成すればよいか、設備の知識だけでは解決できないことも多く、頭を悩ませることもありましたが、その一つひとつを積み重ねることが廃炉を着実に進め、それが地域の復興につながると信じて、この９年半余りを過ごしてきたように思います。

今年10月に異動となり、現在は５、６号機に関わる敷地環境をより良くするための対策を考える部署で、マネージャーをしています。震災以降、間もなく10年が経過しようとしていますが、廃炉と共に、自分自身も前に進むための10年だったと思います。これまで一緒に取り組んできた仲間、地域の皆さまとのコミュニケーションを大切にしながら、少しずつでも前に進めるような仕事をしていきたいと思っています。

私は1993年の入社以来、福島で生活をしていました。大熊町に居を構えておりましたので、福島への強い想いがあります。廃炉を進めることで福島の復興が進むことが、私自身、少しでも地域に貢献できたと言えるのではないかと思っています。

ここでの作業は一人ではできません。人と人との繋がりで成し遂げられることも多くあります。若い世代の社員に震災の経験を伝え、必要な技術や知識を伝承し、廃炉が着実に進むような土台づくりをすることも私たちの役目です。確実にそして継続して安全な作業ができるよう、今できることにしっかりと取り組んでいきます。

ときを繋ぐ、まちの風景

「紅葉の名所」といわれている場所は日本各地にありますが、幼いころから見てきた景色や、通り慣れた街並みの色づきは、他のどこよりも印象に残っています。

浜通りに色づく秋の記憶をたどりながら、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町で撮影してきました。

青い空の下で、ほんの短い間だけ赤や黄色に色づくこの景色は、これまでも、そしてこれからもずっと変わらないものなのだと思います。

双葉町駅前

大熊町下野上地区

浪江町丈六公園

富岡町夜ノ森駅前

大熊町大川原地区

編集後記

今回撮影してきた大熊町の銀杏並木は、私が通った大野小学校までの通学路でした。

いつもはあっという間に駆け抜けるこの道も、この時期だけは、銀杏を踏まないように慎重に歩いたのを思い出しました。

そして構内で行われている作業風景を撮影しながら、たくさんの想いをお聞かせいただきました。

これから続く作業は簡単なものではありませんが、皆さまのご協力をいただくことで安全に、確実にその先へ進めることができると実感しました。

（サキ）

今回の表紙

「はいろみち」作成のために、これまで撮影した作業風景や構内外の写真、約 200枚を掲載いたしました。
誌面でご紹介できる枚数が限られているため、これまで掲載することができなかった写真です。
沢山の方々のご協力により進められている「廃炉の進捗」や「想い」を多くの写真と共にご紹介できるよう今後も工夫して作成してまいります。

Made in Fukushima

この印刷物は、復興支援の一環として、福島県の印刷会社に、デザイン制作および製造を依頼し発行したものです。

「廃炉プロジェクト」
ホームページURL
https://www.tepco.co.jp/decommission/index-j.html

「はいろみち」
バックナンバーURL
https://www.tepco.co.jp/decommission/visual/magazine/

1F●R ALL JAPAN 廃炉のいま、あした
https://1f-all.jp/

福島第一原子力発電所 廃炉情報誌 はいろみち　第23号　2020年12月10日発行

編集発行責任者
東京電力ホールディングス株式会社　福島第一廃炉推進カンパニー
廃炉コミュニケーションセンターコミュニケーション企画グループマネージャー
〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22
【はいろみちに関するお問合せ】TEL（0240）30-5531（平日午前9時～午後4時）

公式フェイスブック
facebook.com/OfficialTEPCO

公式ツイッター
@TEPCO_Nuclear

VEGETABLE OIL INK